2020年度（令和2年度）のイベントの実施について（お知らせ）

平素より、本センターのイベントの開催に当たっては、ご参加、ご協力いただきありがとうございます。

ご承知の通り、現在、新型コロナウイルスの発生に対して「緊急事態宣言」が発せられ、各地で不要不急の外出の自粛が要請されています。

本学でも、当面、外部の方の入構禁止措置や教職員の在宅勤務体制が取られるなど、様々な対応が実施されています。

これに鑑み、本センターでも例年予定されているセンターの各イベント・研修会等について、情勢をみながら実施、延期、あるいは中止等の措置を順次決定し、広報しています。

各位におかれましては、本センターのホームページの新着ニュース欄あるいはイベントのページをご覧いただき、ご参加下さい。

今後とも本センター事業へのご理解、ご協力をお願いするとともに、皆様のご健勝をお祈りしています。

東京学芸大学国際教育センター　所員一同

【終了いたしました】令和2年度　東京学芸大学国際教育センター　第１回　外国人児童生徒等教育研修会（JSL 研修会）の開催について（第１次案内）

【令和２年度終了いたしました】令和３年度の募集も終了しております。

外国人児童生徒等教育担当者　各位

（第１次案内）

平素は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るうなかで新年度を迎え，各位におかれましては，その対応でご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。また，被患された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて当センターでは，今年度も，増加する日本語指導を必要とする外国人児童生徒等を受け入れている学校での日本語指導，学習指導，受け入れ体制の整備に資することを目的として，JSL (Japanese as

a Second Language) 指導者研修を実施します。例年，本研修は年 3 回開催しておりましたが，今年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴い，6 月と 10 月の 2 回の開催とし，開催方法も対面式ではなく，遠隔会議方式とするなど予定を変更し，実施することとしました。

第 1 回の研修ではオンライン実施により，人数を限定して行うため，主にはじめて外国人児童生徒担当になった教員を対象として，自信をもって指導にあたれるようになることを目指します。したがって，例年実施している，JSL カリキュラムに基づく授業づくりの授業力向上を目的とした講座（いわゆる B コース）は，今回は実施いたしませんので，ご了承ください。

以下に，研修会の概要並び今後の申し込み方法について記載してありますので，ご興味を持たれた方はぜひご参加ください。

記

1．日時　6 月 27 日（土）　13 時から 17 時頃まで

※一部，事前の講義動画の配信を検討しております。

2．方法　遠隔会議方式（Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催）

3．参加対象者　日本語指導の必要な児童生徒等の在籍する地域，学校の管理職，教職員，

指導担当教諭，関係教職員（定員：50 名）

オンラインでの円滑な実施のため，今回の趣旨に鑑み，「初めて日本語指導を担当される教員」・「研修を受けたことのない日本語指導担当」の方を優先させていただきます。

4．参加費　無料

5．日程の詳細ならびに参加申し込み方法

＜プログラム予定＞

【全体会】13：00～14:30

・日本語指導が必要な外国人児童生徒等への対応に関する基礎講義

【分科会】14：30～16：30

・現状の課題について（参加者の直面している，あるいは勤務校等の課題について検討します。）

参加申し込みの詳細および申し込み受付開始は，来週 6 月 4 日を予定しております。詳細につきましては東京学芸大学　国際教育センターホームページ(http://crie.u-gakugei.ac.jp/)にて，随時ご案内しますので、ご関心のある方は、上記ホームページをご参照の上、直接お申込みください。

6. 問い合わせ先

東京学芸大学国際教育センター　教務室　担当 新貝　美恵子

MAIL　c-event@u-gakugei.ac.jp

TEL　042-329-7717 【対応可能曜日・時間】毎週木曜日 9:00～16:00,　FAX　042-329-7722

※なお，本学では 6 月も引き続き，コロナウイルス感染症の対策として大学への入構規制を実施しております。そのため、所員，事務職員はじめ関係者も出勤日数の削減および自宅での勤務を行っております。従いまして，本件の問い合わせについては原則メールでお受けしております。また，ご返事に対して少し時間をいただくことをご了承願います。

【受付終了】令和2年度　東京学芸大学国際教育センター　第 1 回　外国人児童生徒等教育研修会（JSL 研修会）の開催について（第 2 次案内及びお申込みについて）

外国人児童生徒等教育担当者　各位

平素は格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るうなかで新年度を迎え，各位におかれましては，その対応でご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。また，被患された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて当センターでは，今年度も，増加する日本語指導を必要とする外国人児童生徒等を受け入れている学校での日本語指導，学習指導，受け入れ体制の整備に資することを目的として，JSL (Japanese as a Second Language) 指導者研修を実施します。例年，本研修は年 3 回開催しておりましたが，今年度は新型コロナウイルス感染症対策に伴い，6 月と 10 月の 2 回の開催を予定しております。

第 1 回の研修は予定を変更し，対面式ではなく遠隔会議方式で実施いたします。オンライン実施により，人数を限定して行うため，今回は、主にはじめて外国人児童生徒担当になった教員を対象として，様々な疑問や不安を解消し自信をもって指導にあたれるようになることを目指します。したがって，今回は，例年実施しております，JSL カリキュラムに基づく授業づくりの授業力向上を目的とした講座（いわゆる B コース）は，実施いたしませんので，ご了承ください。

以下に，研修会の概要並びに申し込み方法について記載してあります。ご興味を持たれた方はぜひご参加ください。

記

1. 日時　6 月 27 日（土）　13 時から 17 時頃まで

　※一部，事前の講義動画の配信があります。

2. 方法　遠隔会議方式（Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催）

3. 参加対象者　日本語指導の必要な児童生徒等の在籍する地域，学校の管理職，教職員，

指導担当教諭，関係教職員（定員：50 名）

オンラインでの円滑な実施のため，今回の趣旨に鑑み，「初めて日本語指導を担当される教員」・「研修を受けたことのない日本語指導担当」の方を優先させていただきます。

4. 参加費　無料

5. プログラム

【事前基礎講座】（東京学芸大学国際教育センターHP 上に掲載）

・吉谷　武志 「外国人児童生徒教育・はじめの一歩―多文化の子ども理解と担当教員の役割」

・見世千賀子 「外国人児童生徒教育・はじめの一歩―年少者の子どもへの日本語教育」

【6 月 27 日オンライン開催】 Zoom

12：30～	**受付開始**
13：00～14：30	**全体会**
	総合司会：吉谷　武志（国際教育センター）
開会挨拶	竹鼻　ゆかり（東京学芸大学国際教育センター長）
はじめに	見世　千賀子（東京学芸大学国際教育センター）
事前基礎講座への質疑応答	吉谷　武志 （東京学芸大学国際教育センター）
ミニ講義　外国人児童生徒等への指導のポイント	
【日本語教室の運営について】	横溝　亮（横浜市立並木第一小学校）
【日本語教室での指導について】	今澤　悌（甲府市立大國小学校）
14：50～16：50	**分科会（うち 1 時間程度を予定）**
★少人数グループに分かれて現在の課題をめぐって交流します	

講師（敬称略）

市川昭彦（大泉町立北小学校）　　伊藤敦子（小牧市立大城小学校）

今澤　悌（甲府市立大國小学校）　　大菅佐妃子（京都市教育委員会）

小川郁子（都立高校非常勤講師）　　濱村久美（江戸川区立葛西小学校）

横溝　亮（横浜市立並木第一小学校）　榊原知美（国際教育センター）

松井智子（国際教育センター）　　見世千賀子（国際教育センター）

吉谷武志（国際教育センター）　　三好　大（国際教育センター）

６．　参加申し込み方法（受付は終了いたしました）

お申し込みは原則，オンラインフォームより受け付けております。どうぞ奮ってご参加ください。なお，今回はオンラインでの実施となりますので，以下の注意点および参加規約に同意していただいた上でのお申し込みとなります。お申し込みの前に，必ずご一読ください。

＊オンライン実施に関する注意点＊

第１回はオンラインで開催するため，次の参加条件を全て満たしていることが必要となります。

〇本センターの担当者と連絡可能なメールアドレスをお持ちであること

〇当日利用可能なパソコンやタブレットなどの ICT 機器をお持ちであること

〇かつ，カメラとマイク（ヘッドセット）等の設備をお持ちである（あるいは当日までに購入予定である）こと

〇安定したインターネットの接続環境があること

＊研修会への参加規約＊

１）本研修会では参加者の皆様が安心して参加できるよう，カメラをオンにした状態にする，氏名とご所属を明示していただくなどのご協力をいただく場合があります。

２）研修会実施中に，誹謗中傷や不適切な言動を繰り返した場合には，管理者の権限でオンライン会議室から退出させる場合があります。

３）研修会に関連して配布する資料や動画の著作権を保護するため，オンライン会議中の画面を撮影したり，事前に配布した資料を参加者以外に転送することは厳に慎んで下さい。

4）不正なアクセスを防ぐために，参加者のみに通知されている情報（URL や動画閲覧用パスワード）などは，決して外部に漏らさないでください。

5）参加者とのやり取りから得られた情報は，個人情報を含んでいる場合があるため，取り扱いには注意してください。

6）研修会に参加したことに伴う，機器のトラブル等に関して，本センターは一切の責任を負いません。

7）本センターでは，今後の研修会の改善のため，研修会実施中の様子の一部または全部を録画することがあります。予めご了承ください。

令和 2 年 6 月 4 日

東京学芸大学国際教育センター　所員一同

令和2年度　第 2 回　外国人児童生徒等教育研修会（JSL 研修会）の開催について（第 1 次案内）

外国人児童生徒等教育担当者　各位

平素は本センターの運営に格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の猛威が拡大し続ける中，各位におかれましては，その対応でご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。また，被患された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて，当センターでは，第 1 回に引き続き，増加する日本語指導を必要とする外国人児童生徒等を受け入れている学校での日本語指導，学習指導，受け入れ体制の整備に資することを目的として，JSL (Japanese as a Second Language) 指導者研修を実施します。第 2 回の研修では，外国人児童生徒教育の主要な課題である日本語で学ぶ力を高めるための授業づくりの方法として JSL カリキュラムの基礎について扱います。

なお、今回も新型コロナウイルス感染症対策のため，開催方法を対面式ではなく，遠隔会議方式に変更し，実施することとしました。また，オンライン上での円滑な実施のため、参加者数に上限を設定して行います。そのため，主に初めて外国人児童生徒担当になった教員を対象とし，例年実施している，JSL カリキュラムに基づく授業づくりの授業力向上を目的とした講座（いわゆる B コース）は，今回は実施いたしませんので，ご了承ください。

以下に，研修会の概要並び今後の申し込み方法について記載してありますので，ご興味を持たれた方はぜひご参加ください。

記

1．日時　10 月 10 日（土）　13 時から 17 時頃まで

※一部，事前の講義動画の配信を予定しております。

2. 方法

遠隔会議方式（Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催）

3. 参加対象者

・日本語指導の必要な児童生徒等の在籍する地域，小・中学校の管理職，教職員，日本語指導担当教諭，関係教職員，教育委員会関係者（定員：50 名）

※但し、オンラインでの円滑な実施のため，また、今回の趣旨に鑑み，定員を超えて参加希望があった場合、「初めて日本語指導を担当される教員」・「日本語教育・日本語指導に関する研修を受けたことのない日本語指導担当」の方を優先させていただきます。

4. 参加費　無料

5. 当日のプログラム（予定）

【概要】

外国人児童生徒の教育上の課題として、在籍学級での教科学習に困難を抱えていることがよく指摘されます。そこで、この研修会では、日本語と教科内容を統合して指導する JSL カリキュラムをもとに、日本語で学ぶ力を高めるための授業づくりについて学びます。

＜プログラム（予定）※詳細未定＞

【全体会】13:00～14:30

・JSL カリキュラムの授業づくりと実践例紹介

【分科会】14:30～17:00

・対象別 JSL カリキュラムのミニワークショップ、情報交換会等

参加申し込みの詳細および申し込み受付開始は，9 月 1 日を予定しております。詳細につきましては東京学芸大学　国際教育センターホームページ(http://crie.u-gakugei.ac.jp/)にて，随時ご案内しますので、ご関心のある方は、上記ホームページをご参照の上、直接お申込みください。

6. 問い合わせ先

東京学芸大学国際教育センター　教務室　担当　新貝　美恵子

MAIL　c-event@u-gakugei.ac.jp

TEL　042-329-7717 【対応可能曜日・時間】毎週木曜日 9:00～16:00,

FAX　042-329-7722

※なお，本学では当面の間，コロナウイルス感染症の対策として大学への入構規制を実施しております。そのため、所員，事務職員はじめ関係者も出勤日数の削減および自宅での勤務を行っております。従いまして，本件の問い合わせについては原則メールでお受けしております。また，ご返事に対して少し時間をいただくことをご了承願います。

令和2年度　東京学芸大学国際教育センター　第2回　外国人児童生徒等教育研修会（JSL 研修会）の開催について（第 2 次案内及びお申込みについて）

外国人児童生徒等教育担当者　各位

平素は本センターの運営に格別のご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響下，各位におかれましては，その対応でご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。また，被患された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

　さて，当センターでは，第 1 回に引き続き，増加する日本語指導を必要とする外国人児童生徒等を受け入れている学校での日本語指導，学習指導，受け入れ体制の整備に資することを目的として，JSL (Japanese as a Second Language) 指導者研修を実施します。第 2 回の研修では，日本語で学ぶ力を高めるための授業づくりの方法として JSL カリキュラムの基礎について扱います。

なお，今回も新型コロナウイルス感染症対策のため，遠隔会議方式にて実施することとしました。また，オンライン上での円滑な実施のため，参加者数に上限を設定して行います。そのため，主に初めて外国人児童生徒担当になった教員を対象とし，例年実施している，JSL カリキュラムに基づく授業づくりの授業力向上を目的とした講座（いわゆる B コース）は，今回は実施いたしませんので，ご了承ください。なお，来年度以降，新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況が収束に向かうなど状況が改善された場合には，対面式での研修の実施並びに B コースの再開を検討しております。

　以下に，研修会の概要並び今後の申し込み方法について記載してありますので，ご興味を持たれた方はぜひご参加ください。

記

1．日時　10 月 10 日（土）　13 時から 17 時頃まで

※一部，事前の講義動画の配信いたします。

2. 方法

遠隔会議方式（Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催）

3. 参加対象者

定員：40 名

＜対象＞

1）次に条件に該当する日本語指導担当教員

—国，公，私立の小学校・中学校の教員

—今年度初めて日本語指導を担当していること

あるいは「日本語教育・日本語指導に関する研修を受ける機会の少ないこと」

2）外国人児童生徒の在籍する小学校・中学校を所管する教育委員会担当者（指導主事等）

3）外国人児童生徒の在籍する小学校・中学校の管理職（校長・副校長等）

※定員を超えて参加希望があった場合，参加申し込み時にいただいた情報をもとに参加者を決定いたします。

※市町村教育委員会や国際交流協会派遣の支援員やボランティアの方や，現在外国人児童生徒へ直接指導に当たっていない方は今回，対象外とさせていただきます。

4. 参加費

無料（なお参加に際する通信費等は自身でご負担ください。）

5. プログラム

＜概要＞

外国人児童生徒の教育上の課題として，教科学習に困難を抱えていることがよく指摘されます。そこで，この研修会では，日本語と教科内容を統合して指導する JSL カリキュラムをもとに，日本語で学ぶ力を高めるための授業づくりについて学びます。

＜プログラム＞

【事前基礎講座】（東京学芸大学国際教育センターHP 上に掲載）

①「日本語で学ぶ力を高める指導—JSL カリキュラム入門」

見世千賀子（東京学芸大学国際教育センター）

②「JSL カリキュラムの授業づくりの視点と指導計画」

今澤　悌　（甲府市立大国小学校）

【10 月 10 日オンライン（Zoom）開催】

13:00～13:30　**全体会**			
総合司会：吉谷　武志（国際教育センター） 13:00　**開会挨拶**　竹鼻　ゆかり（国際教育センター長） 13:05　**はじめに（趣旨説明）**　見世　千賀子（国際教育センター） 13:10　**事前基礎講座への質疑応答**　吉谷　武志　（国際教育センター）			
13:40～14:40（1 時間）　**JSL カリキュラム実践例の紹介**			
1）小学校「国語科」1年「すきなものなあに」 横溝　亮　（横浜市立並木第一小学校） 2）中学校「理科」 1年　身の回りの物質「水溶液の性質」 小川　郁子（都立高校　非常勤講師）			
14:50～16:20　**ミニワークショップ**			
JSL（小学校①） トピック型 「これは，何でしょうか」	JSL（小学校②） 理科 4年「電流のはたらき」	JSL（小学校③） 算数 2 年「長方形と正方形」	JSL（中学校） 社会（地理） 世界のさまざまな地域 「面積の大きい国と小さい国」
市川　昭彦 （大泉町立 大泉北小学校） 吉谷　武志 （国際教育センター）	今澤　悌 （甲府市立 大国小学校） 榊原　知美 （国際教育センター）	横溝　亮 （横浜市立 並木第一小学校） 松井　智子 （国際教育センター）	小川　郁子 （都立高校） 見世　千賀子 （国際教育センター）
16:20～17:00 **全体会**			

【ミニワークショップについて】

ミニワークショップでは，講師が提示した単元やテーマについて JSL カリキュラムの考え方に基づいて授業の計画を立てるワークを行います。詳細は確定次第参加者へお知らせいたします。また，講師への質疑応答や参加者の交流も行う予定です。管理職の方は，いずれかのグループにご参加いただきます。

＜補足＞

トピック型（小学校 1）…児童生徒の興味関心に沿ったテーマを設定し，「体験⇒探求⇒発信」を通して教科学習の基本となる活動に日本語で参加する力を高めることを狙いとして実施します。

教科志向型（小学校②・小学校③・中学校）…教科ごとに必要とされる学習の仕方を経験し，各教科の学習に日本語で参加できる力を育むことを狙いとして実施します

6.　参加申し込み方法　受付は終了しました

お申し込みは原則，オンラインフォームより受け付けております。なお，今回はオンラインでの実施となりますので，以下の注意点および参加規約に同意していただいた上でのお申し込みとなります。お申し込みの前に，必ずご一読ください。

＊オンライン実施に関する注意点＊

研修会はオンラインで開催するため，次の参加条件を全て満たしていることが必須となります。

〇本センターの担当者と連絡可能なメールアドレスをお持ちであること

※資料を送付するため，キャリアメール（@docomo.ne.jp など）はお使いいただけません。

〇当日利用可能なパソコンやタブレットなどの ICT 機器をお持ちであること

※スマートフォンでの参加は操作が困難な場合や資料が見づらい場合があり非推奨です。

※学校の業務用端末ではセキュリティの都合上，Zoom を使用できない場合があります。お申込み前にご確認ください。

〇かつ，パソコンに備え付け，あるいは，外部接続のカメラとマイク（ヘッドセット）等の設備をお持ちである（あるいは当日までに購入予定である）こと

〇安定したインターネットの接続環境があること

＊研修会への参加規約＊

1）本研修会では参加者の皆様が安心して参加できるよう，カメラをオンにした状態にする，氏名とご所属を明示していただくなどのご協力をいただく場合があります。

2）研修会実施中に，誹謗中傷や不適切な言動を繰り返した場合には，管理者の権限でオンライン会議室から退出させる場合があります。

3）研修会に関連して配布する資料や動画の著作権を保護するため，オンライン会議中の画面を撮影したり，事前に配布した資料を参加者以外に転送することは厳に慎んで下さい。

4）不正なアクセスを防ぐために，参加者のみに通知されている情報（URL や動画閲覧用パスワード）などは，決して外部に漏らさないでください。

5）参加者とのやり取りから得られた情報は，個人情報を含んでいる場合があるため，取り扱いには注意してください。

6）研修会に参加したことに伴う，機器のトラブル等に関して，本センターは一切の責任を負いません。

7）本センターでは，今後の研修会の改善のため，研修会実施中の様子の一部または全部を録画することがあります。予めご了承ください。

令和 2 年 9 月 1 日

東京学芸大学国際教育センター　所員一同

＜お申し込み方法＞

【オンラインフォーム】

次の URL または QR コードよりお申し込みください。

なお，必ず参加者ご自身でお申し込みください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=JV8MPrcmfUiS2dHOCM5aW81GeHQD5UlMqueOlpOinVpUN0xLTjNLMlpGTlc1QlpHMlpWMlo4UEpONS4u

【重要】お申し込み後のスケジュール

2020 年 9 月 1 日(火)	受付開始
	※順次お申込いただいたメールアドレスに受付完了の通知をお送りいたします。9/15（火）正午までに本センターより通知のない方は下記メールアドレスにご連絡ください。
2020 年 9月 13 日(日)	受付終了
	※定員を超えるお申し込みがあった場合，今回の趣旨を勘案したうえで，参加者を決定させていただきます。
	参加可否の通知

2020 年 9 月 17 日(木)	※お申し込みいただいた全ての方に参加の可否についてご連絡いたします。なお，ご参加いただく方には，事前基礎講義の視聴等についてもご連絡いたします。

※多数のお申し込みをいただいているため，締め切り後の参加申し込みはいかなる理由があっても承っておりません。予めご了承ください。

参考オンラインフォームからお申し込みいただけなかった方へ

メールおよびファックスでもお申し込みを受け付けております。

【メール・ファックスでお申し込みの方】

・お申込用紙（令和 2 年度第 2 回 JSL 研修会申込用紙）

~~【申込用紙】令和 2 年度第 2 回 JSL 研修会.docx~~

・宛先 「東京学芸大学国際教育センター事務室」

メール： c-event@u-gakugei.ac.jp

件名： 第 2 回 JSL 研修会申込（お名前）

ファックス： 042-329-7722

【お願い】個人による本研修会に関する案内のメーリングリストや SNS 等への転載はお控えください。

7. 問い合わせ先

東京学芸大学国際教育センター　教務室　担当　新貝　美恵子

MAIL　c-event@u-gakugei.ac.jp

TEL　042-329-7717 【対応可能曜日・時間】毎週木曜日 9:00～16:00,

FAX　042-329-7722

※なお，本学では当面の間，コロナウイルス感染症の対策として大学への入構規制を実施しております。そのため，所員，事務職員はじめ関係者も出勤日数の削減および自宅での勤務を行っております。従って，本件の問い合わせについては原則メールでお受けしております。また，ご返事に際して少し時間をいただくことをご了承願います。

令和 2 年度　第 41 回海外子女教育セミナー

今年度は遠隔会議方式（Web 会議サービス Zoom によるオンライン開催）となります。海外子女教育に関心のある方、海外教育機関派遣に興味のある方はぜひご参加ください。

- 開催日時: 2020 年 10 月 31 日（土） 13:00～16:30
- テーマ: 「海外子女教育－児童生徒の多様性を生かし育てる教育モデル」

プログラム

12:30　　受付開始

第一部

司会: 榊原知美 （東京学芸大学国際教育センター准教授）

13:00　　開会

13:00～13:05　開会の挨拶　東京学芸大学国際教育センター長　竹鼻　ゆかり

13:05～13:15　趣旨説明　東京学芸大学国際教育センター教授　松井　智子

13:15～13:55　講演 「海外子女教育の現状と課題」

文部科学省総合教育政策局国際教育課　国際調整企画官

前澤　綾子

13:55～14:05　質疑応答

14:05～14:15　休憩

第二部

司会:見世千賀子 （東京学芸大学国際教育センター准教授）

14:15～15:55　派遣教員による海外での実践報告

1. 河口　雅史　東京学芸大学附属大泉小学校教諭・前ロッテルダム日本人学校教諭

2. 平井　伸　千葉県子どもと親のサポートセンター相談員・前シカゴ双葉会日本 語学校補習校教頭

3. 新内　俊允　台北日本人学校教諭

近藤　裕敏　台北日本人学校校長

4. 二宮　健吾　香港日本人学校香港校小学部教諭

田中　泰貴　香港日本人学校香港校小学部教諭

15:55～16:25　質疑応答

16:25～16:30　閉会の挨拶　　東京学芸大学国際教育センター教授　　吉谷　武志

16:30　　閉会

- **参加費:　無料**
- **定員:100 名(定員になりましたので受付終了いたしました)**
- **問い合わせ先:c-event@u-gakugei.ac.jp**

東京学芸大学国際教育センター　教務室　受付担当　新貝美恵子

☎042-329-7717　木曜 9:00～16:00 (大学入構規制のためお問合せはメールでお願いいたします)

令和 2 年度　第 10 回多文化共生フォーラム(第 1 次案内)

多様な子どもを受け入れる学校

ーセクシュアル・マイノリティの視点からー

期　日:2020 年 12 月 5 日　13 時～17 時

概　要:

今日の学校は言語、宗教、生活習慣、さらにその特性などから「多様な子ども」を受け入れることが求められている。とくに見えにくい存在としてのセクシュアル・マイノリティに属する子どもたちの受け入れ・支援は、その存在の社会的な顕在化、認知度の高まりも相まって、急速にその必要性を増している。

日本社会でも、国際的な流れを受けて、様々な制度が整備されつつあり、教育現場でもその流れの中にある。教育の分野においても文部科学省による学校での在籍調査、対応状況に関する調査が実施され、それらにもとづく教職員向けのガイドラインが出されるなど、この 10 数年間に、こうした児童生徒への対応が改善さえ、少しずつ環境改善への取り組みが行われてきた。

しかしながら、こうした理念や制度の整備にもかかわらず、学校における現実、つまり受入れ体制の構築、整備、教師や児童生徒をはじめとする関係者の理解が進んでいるかというと、まだ十分であるとはいいがたい現実がある。こうした現実が変わらないことの原因の一つは、セクシュアル・マイノリティであること、その当事者性に対する理解、そして関係者の中での「対話」が進んでいないことなどがあるように思われる。このことは、セクシュアル・マイノリティの子どもたちだけでなく、学校に在籍する多様な子どもへの理解や受け入れにもかかわる課題であると言える。

本フォーラムでは、セクシュアル・マイノリティの子どもにフォーカスし、学校にかかわる者がどのような工夫をすることで、多様な子ども、児童生徒を受け入れる多文化学校を作ることができるのかを考えていきたい。とくに、セクシュアル・マイノリティに属する当事者、支援者と、受け入れる側の学校、教師、さらに教

育委員会関係者、この双方の対話を進める形で、今日求められている「多様性を尊重する学校」の在り方を考えたい。

登壇予定者:

セクシュアル・マイノリティ当事者の教員、家族、学校関係者

受け入れる側の当事者（アライ）としての学校の教員、教育行政関係者

※遠隔会議方式(Zoom 利用)により開催します。

※定員:70 名

※申込み受付開始:2020 年 11 月より　第 2 次案内をお知らせ致しますので、HP をご確認ください。

令和 2 年度　第 10 回多文化共生フォーラム（第 2 次案内）

2020 年 11 月 6 日

第 10 回　多文化共生フォーラム（第 2 次案内）

多様な子どもを受け入れる学校

ーセクシュアル・マイノリティの視点からー

期　日:2020 年 12 月 5 日　13 時～16 時半

概　要:

今日の学校は言語、宗教、生活習慣、さらにその特性などから「多様な子ども」を受け入れることが求められている。とくに見えにくい存在としてのセクシュアル・マイノリティに属する子どもたちの受け入れ・支援は、その存在の社会的な顕在化、認知度の高まりも相まって、急速にその必要性を増している。

日本社会でも、国際的な流れを受けて、様々な制度が整備されつつあり、教育現場でもその流れの中にある。教育の分野においても文部科学省による学校での在籍調査、対応状況に関する調査が実施され、それらにもとづく教職員向けのガイドラインが出されるなど、この 10 数年間に、こうした児童生徒への対応が改善さえ、少しずつ環境改善への取り組みが行われてきた。

しかしながら、こうした理念や制度の整備にもかかわらず、学校における現実、つまり受入れ体制の構築、整備、教師や児童生徒をはじめとする関係者の理解が進んでいるかというと、まだ十分であるとはいいがたい現実がある。こうした現実が変わらないことの原因の一つは、セクシュアル・マイノリティであるこ

と、その当事者性に対する理解、そして関係者の中での「対話」が進んでいないことなどがあるように思われる。このことは、セクシュアル・マイノリティの子どもたちだけでなく、学校に在籍する多様な子どもへの理解や受け入れにもかかわる課題であると言える。

本フォーラムでは、セクシュアル・マイノリティの子どもにフォーカスし、学校にかかわる者がどのような工夫をすることで、多様な子ども、児童生徒を受け入れる多文化学校を作ることができるのかを考えていきたい。とくに、セクシュアル・マイノリティに属する当事者、支援者と、受け入れる側の学校、教師、さらに教育委員会関係者、この双方の対話を進める形で、今日求められている「多様性を尊重する学校」の在り方を考えたい。

登壇予定者（次第を参照してください。）：

セクシュアル・マイノリティ当事者の教員、家族、学校関係者

受け入れる側の当事者（アライ）としての学校の教員、教育行政関係者

聴衆について：

学校関係者（教師、教育行政関係者）や当事者の関係者の参加を想定しています。

「グランドルール」の承認をしていただき、参加者の安全、安心、人権の尊重された環境での開催を行いたいと思います。

申込みが予定数を超えた場合、参加をお断りする場合があります。

※遠隔会議方式(Zoom 利用)により開催します。

※定員：70 名

※申込み受付開始：2020 年 11 月 6 日(金)、参加者の確定 11 月 27 日(金)

第 10 回　多文化共生フォーラム

「多様な子どもを受け入れる学校ーセクシュアル・マイノリティの視点からー」

日　時：2020 年 12 月 5 日（土）　13：00～16：30

■■■プログラム■■■

12：30　　開場、受付（接続）開始

13：00　　開会

13：00～13：05　　開会の挨拶

第一部　　多様な子どもを受け入れる学校の試み

ーセクシュアル・マイノリティの子どもを通してみた現状と課題ー

13:05～13:25　　趣旨説明　吉谷武志（東京学芸大学国際教育センター）

13:25～14:05　　講演

「多様性が尊重される学校をめざして―倉敷市の試み―」

松尾真治（岡山県倉敷市教育委員会人権教育推進室　指導主幹）

14:05～14:15　　質疑応答

（14：15～14:25 休憩　）

第二部　　多様な子どもを受け入れる学校に求められること

ーセクシュアル・マイノリティの子どもの視点からー

14:25～16:00　　セクシュアル・マイノリティの関係者として学校に求めたいこと

小学校教員の立場から　　鈴木茂義氏

（公立小学校非常勤講師、上智大学非常勤講師）

スクールカウンセラーの立場から　大賀一樹氏

（NPO 法人共生ネット理事／臨床心理士／公認心理師）

家族の立場から　　小野　春氏

（にじいろかぞく代表、「結婚をすべての人に」訴訟原告）

学校教員、実践者の立場から（現職学校教員からのコメント）

16:00～16:25　質疑応答

16:25～16:30　閉会の辞

※参加者には、本フォーラムの内容に鑑み相互の人権を尊重し、安全安心に留意する「グランドルール」（申込みフォーム）を承認していただきます

【お申込み方法】

受付期間 11 月 6 日（金曜）～11 月 27 日（金曜）

参加費：無料

定員　：70 名（定員になり次第締め切り）

**　※申込みは（オンラインフォーム）にて**

以下のURLよりお申込みください。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=JV8MPrcmfUiS2dHOCM5aW81GeHQD5UIMqueOIpOinVpUN0syVjdZMjNWMEpJSVJFSEVNM0w4WUM3Wi4u

【お願い】個人による本フォーラムに関する案内のメーリングリストや SNS 等への転載はお控えください。

問い合わせ先

東京学芸大学国際教育センター　教務室　受付担当　新貝　美恵子

MAIL　c-event@u-gakugei.ac.jp

TEL　042-329-7717 【対応可能曜日・時間】毎週木曜日 9：00～16：00,

※なお，本学では当面の間，コロナウイルス感染症の対策として大学への入構規制を実施しております。そのため，本件の問い合わせについては原則メールでお受けしております。また，ご返事に際して少し時間をいただくことをご了承願います。

2020 年度教育支援経費事業（国際教育センター企画） 教師を目指す学生のためのセクシュアル・マイノリティ理解講座 －LGBTQ から SOGI へ、当事者と語り理解を深める時間－

企　画：東京学芸大学国際教育センター
企画協力：NPO 法人 共生社会をつくるセクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク（共生ネット）
（Zoom と会場参加によるハイブリッド方式で開催します。）

**　今日、学校にはたくさんのセクシュアル・マイノリティやその周辺にいる子どもたちが在籍しています。それに気付かない教師の一言が知らず知らずのうちにこうした子どもたちを傷つけ、心を閉ざさせているかもしれません。ちょっとした心遣いができることで、セクシュアル・マイノリティの子どもたちだけでなく、**

学級のすべての子どもたちにとって安全な場所(居場所)ができあがります。
さあ、まず心を開いて当事者からの語りかけを聞いて、理解を深めて下さい。

※下記の申し込み受理後、zoom 会議へのアクセス方法を通知します。

お申込みは、当大学の学生が対象となります。

日 時　　：2021 年 1 月 18 日(月)～22 日(金) 18 時 30 分～20 時
方法・場所　：Zoom と会場・国際教育センターでの参加のハイブリッド形式遠隔会議
アクセス開始　：18 時 15 分～18 時 30 分
申し込み　　：国際教育センター c-event@u-gakugei.ac.jp（受理後、アンケート記載）
[記載事項：名前、学籍番号、聴講希望日・複数可、メールアドレス(携帯は不可)]
申し込み締切　：2021 年 1 月 13 日(水) 17 時
定　員　　：各回 40 名（複数日聴講可）

1 月 18 日(月)（zoom と会場参加）
「多様な個人にやさしい仕組みをつくるーセクシュアル・マイノリティフレンドリーな社会とは」
講師 原 ミナ汰さん NPO 法人共生ネット及び(一社)LGBT 法連合会 代表理事代表理事

1 月 19 日(火)（zoom)
「教員を目指す学生に伝えたいこと一学校での体験談」
講師 タクミさん NPO 法人共生ネット

1 月 20 日(水)（zoom)
「セクシュアル・マイノリティの親をもつ子どもたちーLGBT ファミリー、案外近くに暮らしていますー」
講師 小野 春さん（にじいろかぞく代表・「結婚の自由をすべての人に」訴訟原告）

1 月 21 日(木)（zoom と会場参加）
「ゲイの現役教師が伝えたいこと—セクシュアル・マイノリティにとっての学校—」
講師 鈴木 茂義さん 公立小学校非常勤講師

1 月 22 日(金)（zoom)
「スクール・カウンセラーからみた学校のセクシュアル・マイノリティ事情」
講師 大賀 一樹さん NPO 法人共生ネット理事、臨床心理士、公認心理師、早稲田大学スチューデントダイバーシティセンター／ジェンダー・セクシュアリティ(GS）センター専門職員

令和 2 年度　第 13 回国際教育センターフォーラム

異文化理解の方法としてのワークショップの可能性を考える

文化を跨いで学ぶ子ども達がいる環境では，特定の文化の枠組みの中で教育を進めるのではなく，自分たちを取り巻く文化そのものを柔軟に見直し，新しい教育や学びのあり方を探求していくことが必要に

なります。別の言い方をすれば，教える側も異文化の環境の中で学び，変わっていくことが求められます。このように自分自身のあり方を捉え直しつつ，他者と関わるための方法として「ワークショップ」が近年注目されています。今回のフォーラムでは，様々な現場を対象としてワークショップの実践・研究を進めている方々と，異文化間対話の研究・実践を進めている方々をゲストにお迎えして，異文化理解とワークショップの接点と可能性を探りたいと思います。海外・帰国児童生徒教育や外国人児童生徒教育など，文化を跨いで学ぶ子ども達に関わる実践者，研究者，その他多くの方のご参加をお待ちしています。

日時： 2021 年 2 月 6 日（土）13:30～17:00

開催方法： Zoom

定員： 70 名

申し込み締切：定員になりましたので締め切りいたしました

参加費： 無料

申し込み方法：
以下の URL または QR コードよりお申込みください。

~~https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=JV8MPrcmfUiS2dHOCM5aW81GeHQD5UlMqueOlpOinVpUNFpWRjhTQzRVSzRNUDVBWkU2SjlLWVZITy4u~~

受付は終了いたしました。

たくさん申込みありがとうございます。

お問合せ先：
東京学芸大学国際教育センター　教務室　受付担当　新貝美恵子
Mail c-event@u-gakugei.ac.jp
Tel 042-329-7717　火、木、金曜 9:00～16:00

第 13 回国際教育センターフォーラムポスター.pdf

＜プログラム＞

総合司会　見世　千賀子（東京学芸大学国際教育センター・准教授）

13:30～13:35 開会の辞　竹鼻　ゆかり（東京学芸大学国際教育センター・センター長）
13:35～13:50 趣旨説明　榊原　知美（東京学芸大学国際教育センター・准教授）

13:50～14:50 基調講演
「自分の当たり前に気づかない＜教え手＞はどうして生まれるのか」
苅宿　俊文（青山学院大学社会情報学部・教授）

— 休憩 —
15:00～16:55 シンポジウム
話題提供
15:00～15:20「日中韓『異己』理解共生授業プロジェクトにおける教員の変容」
釜田 聡（上越教育大学大学院学校教育研究科・教授）

15:20～15:40 「日韓中越のお金をめぐる子どもの生活世界：文化差の立ち現れと相互調節」
呉 宣児（共愛学園前橋国際大学・教授）

15:40～16:00「Life is group work だと学ぶ共同としての教育（について考えるオンラインワークショップ）」
有元 典文（横浜国立大学教育学部・教授）

コメンテーター 高木 光太郎（青山学院大学社会情報学部・教授）

16:55～17:00 閉会の辞 吉谷 武志（東京学芸大学国際教育センター・教授）

【概要】

自分の当たり前に気づかない＜教え手＞はどうして生まれるのか

青山学院大学社会情報学部 苅宿 俊文

ワークショップということが一般化した契機は、2001 年に出版された岩波新書の中野民夫「ワークショップ」からである。そこではワークショップを「講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、参加者が自ら参加・体験して、共同で何か学びあったり、創り出したりする学びと創造のスタイル」としている。そして 20 年。学習指導要領では「主体的で対話的な深い学び」というメッセージとともに広く喧伝されているアクティブラーニング＝能動的学習には、ワークショップは、その方法論の一つの柱石として多く取り込まれている。

本講演は、本フォーラムの参加されている方々は既に多くのワークショップを実施されていることを前提に、ワークショップを実践・研究している立場から「ワークショップをワークショップで学ぶ」という授業デザインを体験してもらいたいと考えている。この授業デザインの骨子は、階層的なワークショップを体験しながら、そこに埋め込んである「自分の当たり前に気づかない＜教え手＞はどうして生まれるのか」を考えるきっかけを見出していくというものである。これは、2009 年度から青山学院大学で実施している社会人対象の「ワークショップデザイナー履修証明プログラム」の授業デザインである。

今回は、「リアルタイム型オンライン授業」として取り組むことを好機と捉え、「異文化理解の方法としてのワークショップの可能性」を議論する上での素材として扱ってもらえればと願っている。

日中韓「異己」理解・共生授業プロジェクトにおける教員の変容

上越教育大学大学院専門職学位課程　釜田 聡

私たちは，2014 年当時の国際情勢を憂い，「このようなときだからこそ，東アジア（日中韓）の教育研究者や教師，児童・生徒が対話・交流をする必要がある」という共通理解のもと，日中韓「異己」理解・共生授業プロジェクト（以下，「異己」プロジェクト）を立ち上げました。

国家間の葛藤や国内外において分断状況が顕在化している今，他者の存在を認め，他者との対話の回路を構築することは益々重要になりました。とりわけ，学校教育においては，他者を理解・尊重し，対話の回路を創出する営みは，喫緊の教育課題の一つと考えます。

「異己」プロジェクトでは，他者でなく，「異己」という概念を用いています。それは，「異己」が他者では表現できない意味を包含するからです。「異己」プロジェクトの授業では，児童・生徒が「異己」の存在を認識し，対話を通じて，共生へのアプローチを創出する場を重視しています。

当日のフォーラムでは，主に次の二点について，話題提供いたします。

1 「異己」プロジェクトの概要について

「異己」プロジェクトの生成過程とこれまでの取り組み（授業の様子），現在まで

の到達点について報告いたします。

2 教員の変容や力量形成について

「異己」プロジェクトに参加し，実際に授業実践を行った教員の変容について報告

いたします。

日韓中越のお金をめぐる子どもの生活世界：文化差の立ち現れと相互調節

共愛学園前橋国際大学　呉 宣児

私は、2002 年からお小遣いプロジェクトに参加し、日本・韓国・中国・ベトナムの研究者たちとその 4 か国を回りながら、インタビュー調査、観察調査、質問紙調査を通して「お金をめぐる子どもたちの生活世界」を捉えながら議論してきた。それらの研究の最終成果として 2016 年「子どもとお金：おこづかいの文化発達心理学」（高橋登・山本登志哉編著，東大出版会）が出版され、その英語翻訳書として 2020 年「Children and Money: Cultural Developmental Psychology of Pocket Money (Perspectives on Human Development) が Information Age 社から出版された。

本報告会では、これらの研究から特に「お金をめぐる日韓中越の友達関係」に焦点を当てて発表を行う。結論からいうと、4 か国の子どもたちの生活の中で「おごりの友達関係」と「割り勘の友達関係」の様子があることが分かった。必要に応じて適切におごりができることが一つのスキルとしてとらえられている社会もあり、割り勘こそ身につけるべき大原則としてとらえられる社会もあった。しかし、そこで重要なことは、どちらの社会も「友達と良い関係を維持するため」という目的は同じであることであった。

日本人研究者中心の視点・感覚に対して、韓国的な生活実践者である私の違和感は強烈であった。使われる用語・説明に用いられる言葉一つ一つに納得がいかなかった。日韓中越共同研究者たちは、生活実践者としても研究者としても、互いに異文化の者であった。インタビュー場面の質問の仕方が変わり、統計結果を示す因子名の変化が起こり、研究者同士のおごり割り割り勘の行動変化まで、終わりなき相互理解と相互調節が必要であった。そして、つねに「いまここ」での異文化の者同士の共生のための意識変換が必要であることも分かってきた。

Life is group work だと学ぶ共同としての教育（について考えるオンラインワークショップ）

横浜国立大学教育学部　有元典文

　教育の目標は「人格の完成」である。生きるとは変わることだ。変化という人生を生きる助力が教育だと思う。人生とは、具体的には人々の共同作業のことである。「Life is group work＝人生は共同作業」であり、教育は、学習を通して共同作業を学ぶ場になっているとみることができる。二人以上で一緒に行うから共同作業であり、教育自体もそのはずだ。つまり教育は、学習者の発達を学習者と「共に支える」ことであり、学習者が未来の自分に成るための共同作業だと言える。教育、啓蒙、指導、支援、援助、治療と言った働きかけは、相手がいないと成立しない。子供達（学習者）がいるから、私たちは教育をさせてもらっている。「教育とは教育が適切に機能するための教え手と学び手による共同作業」と定義できるだろう。つまりとても対話的なことだ。ともに変わる相手がいなければ教育はモノローグに過ぎない。教育を拍手の音声（おんじょう）に例えても良い。主客未分・一座建立という性質を持ったグループワークと考えてもいい。「犬に引っ張られた！」と思う時、犬から見れば、私が犬を引っ張っている。両者の主語がアイではなくウィーとして、きれいに、水の流れのように歩いていればいい。でもそれには（1）「犬に引っ張られた！」と思わない練習（「社会的カメラワーク」を動かす）と（2）私と犬が引っ張り合わない共同の練習が必要だ。共同の練習は学校にいる間には終わりっこない時間のかかる練習だ。人生が練習であって同時に本番でもある。相手に任せる、共につくる、ことの学習者体験を通して、教育という共同について考える共同の機会を、当日皆さんと一緒につくりたい。お楽しみに！